

2025 山の足跡2 今年のすばるはじめ

(2025/1/11-13)

L : M田、S田石、S京、N口、H麻、H口

バブル期を過ごした自分にとって『西武ヴィラ苗場』に泊まってスキーというのはひとつのステイタスに思える。バブル期から 35 年の時を経てついにそこへたどり着いた。今回は山岳同人すばるの山行で、M田さんの会社の保養所の西武ヴィラ苗場を利用させてもらったのだ。もっとも今回滑るのは苗場スキー場ではない。三国山である。

前日仕事があったS田石夫妻が朝到着するのを待って三国山へ向かう。新三国トンネルを抜けた先の駐車スペースには既に 8 台くらい止められていた。準備を始めると「あーっ、、、スキー靴を忘れた、、、」とH麻。驚く者は居ない。またやったかという程度。仕方がないから取りに戻ろうと運転席に回った所で「あー、あったあ」と荷室にあるのを発見した様子。みんな淡々と準備を進めている。

駐車スペースから少し戻り道路を渡って金網が開いた所が入山口。広くなった場所でスキー板を履いて 8:10、上り出した。ほとんどのメンバーが今季初スキーである。中でもH麻は手術後初めての山スキーとなる。最近の様子を見ている限りでは心配ないと思うが本人は不安に思っていた。状況によっては途中で引き返すことも考えよう。

三国山は取り付きの斜面が結構な斜度となっている。おまけに藪だ。帰りに滑り下りて来るのが心配ではあったが、帰りは帰りで何とかなるだろうとまずはこの急な藪斜面に一步一步を進める。

途中で右足が滑り斜面が上がれなくなった。どうしたのかと思ったら留め具が外れ、シールの後ろ側が剥がれてしまっていた。雪を落として貼り直す問題無さそうだったが、留め具から出たテールの余り部分が立ち上がっていて外れやすくなっていた。保存していた際に変なクセを付けてしまったようだ。取り敢えずここに引っ掛けないように注意しなければ。

約 1 時間、150m ほど上がった所で一本取った。足の早い遅いはあってもここまで特にメンバーの調子に問題は無い。

単独で来ている年配の方が休んでいて、聞くと地元の方でここへよく来るそうだ。年末にはトレースが無いところを両手で掻き分けて上ったそうで 2 時間で上がることを倍掛かっていると笑っていた。

この先から登山道を離れ尾根筋を上って行く。藪もまばらになり等高線も緩くなってくるとみんな帰りにここを滑るのが楽しみな様子で足取りも軽くなる。



M田さんがどんどん上って行く。それを追ってS京さん、僕、その後ろにH麻。少し離れたN口さんにS田石さんが付いている。S田石さんの新しいウェアは今回参加出来なかったカオリさんが好んで着るような色だったので

「ふと見ると、あれっ、カオリさん居るの？って思っちゃうんだよね」とH麻が言っていた。

10:50、斜面を上がり切ると北方に平標山、千ノ倉山の白い頂が見えた。着いたか、と思ったが三国山山頂はもう少し先らしい。

そこからはほとんど平らな雪面を歩いて 11 時、三国山山頂に到達。北面は木々で塞がれ、景色は南面の見晴らしとなるが、浅間山が見え、妙義山、榛名山、赤城山が峰々の奥に見える。窪んだ沢筋には法師温泉があるそうだ。苗場山は近いのに木々を透かした向こうにある。天気が良く風が無い。

「幸せだぁ」と S 田石さんが呟いた。



上りの途中で会った年配の方がシールを取り外しこれから滑るところだった。

「私 10 年前からここばかり滑ってるんだけど前は全然人が居なかったんですよ。それが最近人が多くなったんで聞いてみたら何だか YAMAP とか見て来るようになったらしいよ。」

今日は三国峠の方に下りて鉄塔の辺りから駐車場へ戻るそうだ。70 を超えたくらいだろうか、颯爽とした感じで滑って行った。

我々は来たルートに沿って戻る。平標山、千ノ倉山が見えた所まで戻ってシールを外し滑降モードに切り替えた。

「じゃあいいますか皆さん、行きますよ」と言ってみ田さんが滑り出すと

「ホオ、ホオ、ホオ、」と周りから囁くような声が出る。こういうお約束なのだろう。

雪面に滑ったトレースはほとんど無く、木を避けながら自由なコース取りをする。6 人居るので少しづつ止まっては人数確認して下りて行く。まだ新しい雪は浮遊感を感じさせ気持ちがいい。

次はあそこの雪面を行こうと思って狙っていたら、滑り出した M 田さんがしっかりそこにシュプール付けて滑って行った。やはり M 田さんはコース取りがうまいな。

時間があれば 1,546m のピークへ回って滑ってみたかったところだが、N 口さんの帰りのバスの時間の関係でそのまま戻ることにした。最後の藪の所で時間が掛かるかもしれないので。

登山道からは覚悟していた通り藪が密になる。しかも斜面も立ってくる上に滑りに勢いがつくような雪質になっている。上って来たトレースから離れないようにしながら木々を避けるがなかなか厄介だ。木にぶつかったりしないよう一番気を付けなくてはいけない H 麻は慎重になる。それでも何とか少しづつ下り切り 12:50 取り付け口に戻った。全員怪我無く下りて来れて良かった。

金網を出た所が道路になっているので出入りと横断時に注意しなければならない。道路を渡った者が車が近づいていないことを確認し合図してから渡るようにした。

駐車スペースに戻ると駐車している車の数が増えていた。山スキー以外にもスノーシューで登っている人も何組か居た。YAMAP のおかげかもしれないけれどそこそこ人気のコースのようだ。

N 口さんを苗場プリンスホテルの玄関まで送った。久しぶりを見る苗場スキー場。学生時代から社会人成りたてにかけて何度も来たゲレンデ。車にステッカーも貼った。横にも広く、縦もそこそこあってなかなかいい造りだなと改めて思った。ユーミンの『サーフ&スノー』ライブを観に来たのも懐かしい。

『雪ささの湯』でひと風呂浴びてから西武ヴィラ苗場に戻った。一息ついてすぐ飲み始めた。H麻が久しぶりに山スキーが出来たことをM田さん、S田石さんが心から喜んでくれて「何より何より、お帰りい」と言って乾杯してくれた。

今晚の献立は“ピエンロー”と言って干しシイタケで出汁を取った鍋である。実はシイタケが苦手なM田さんも「いいですよ、食べますよ食べますよ」と苦笑しながら突いていた。

そしてお酒が進む。昨日の日本酒“菊泉”も美味しかったが今日買った“鶴亀”もまた美味しかった。おかげで途中で陥落してしまった。いったん目を覚ました時にはもうお開きになるところで、M田さん、S田石さんが二人きりで「いやあ、いい新年会だった」と赤い顔で幸せそうに話していた。



最終日、雪がちらついていた。今日はたんばらスキーパークから鹿俣山に行くことになった。部屋の片づけをして外へ出ると道が凍って足元が滑りやすくなっていた。出発しようとしたその時、トラブルがありM田さんが離脱することになってしまった。他のメンバーで行くようにとM田さんは言ってくれたが

「それじゃあ今回はこれで解散にしときましょう。もし行ったとしても何かあったのかもしれないんで」とS田石さんの言う通りじゃないだろうか。

次回はぜひ今回参加出来なかったS治さん、カオリさんを含めてどこかで楽しみたいものだ。

(H口 記)